

2017年4月1日より全柔連が導入するIJF 審判規定

1. 技の評価は「一本」「技有」の2種類 ※「有効」は廃止

はすみ+かいまいと一本

- ①「一本」は、これまで通りインパクトがあり背部がしっかり着地した内容（ローリングした場合は最高で「技有」）。「抑え込み」の場合は20秒で「一本」が与えられる。「指導」は3回目で「反則負け」とし、相手に「一本」が与えられる。
- ②「技有」は、これまでの「有効」以上「一本」未満の投げ技とする。「抑え込み」の場合は10秒以上20秒未満とする。「技有」はいくつ取っても「合わせて一本」にはならない。
※「技有」の定義が変わることになる。「合わせ技」は廃止。

2. 「ゴールデンスコア」の考え方

- ①試合時間内に双方ともスコアがない又は同数のスコア（技有）がある場合「指導」の差だけで勝敗は決することなく「ゴールデンスコア」に突入する。
- ②「技有」または「一本」を獲得した時点で勝敗は決するが、「指導」の数に差が出た時点でも勝敗を決する。(0-0) → (1-0)、(1-0) → (1-1) → (2-1) 太字の勝ち。
(2-1) → (3-2) ※双方に「指導」が与えられた場合、一方が「反則負け」となる。

3. 「僅差」の取り扱い（日本だけの取り入れ）

- ①国内においては、各種大会の要素を考慮して「僅差勝ち」を設ける場合があるが、その場合「指導」が2対0になった場合のみ「指導」0の選手を「僅差」による優勢勝ちとする。
※ IJF 審判規定ではゴールデンスコアに入らない限り「指導」差だけでの勝敗は決しない。
- ②国内の団体戦においては一般的に「一本」「技有」「僅差」以外は「引き分け」とする。
※ IJF 審判規定では「引き分け」はない。

4. 「代表戦」の取り決め

代表戦の場合、「引き分け」の選手から抽選で1名を選び、いきなり時間無制限のゴールデンスコア方式によって勝敗を決する。最初に「指導」を受けた選手が敗者となり、最初に技によるスコアを得た選手が勝者となる。但し、大会によって独自の決め方が行われる場合がある。

5. 「罰則」

- ①積極性に欠ける「指導」は投げ技を準備するのに時間がかかることもあるため、標準的な組み手で組み合っている場合は攻撃を掛けるまでの時間を以前の25秒から45秒程度に猶予を与える。どちらが積極性に欠けるか見極める技量が必要となる。
- ②袖の中に指を入れる行為は、従来通り「指導」
- ③ピストルグリップ・ポケットグリップ・クロスグリップ・片襟・帯を握るなどの標準的でない組み方については、取りが攻撃を準備している又は攻撃している場合は猶予を与えるが、攻撃をしようとしなかった場合や、ブロックするなど防御と思われる場合は従来通り「指導」が与えられる。

5.6秒

- ④立ち技の際、片手、または両手、もしくは片腕、または両腕を使って相手の帯から下を攻撃する、またはブロックする全ての行為は1回目が「指導」、2回目は「反則負け」となる。脚を掴んでいいのは、両選手が立ち技からクリアに寝技の姿勢になった場合のみである。
- ⑤取りが攻撃して受けを投げるときに、受けが取りの脚を掴んで防御した場合。
- イ 取りの投げ技が「一本」であった場合：「一本」のみ宣告。
 - ロ 取りの投げ技が「技有」であった場合：「技有」を与えた後に、受けに「指導」を与える。
 - ハ 取りの投げ技がノースコアであった場合：受けに「指導」のみを与える。

6. 「ブリッジ」と「肘着き」の考え方

- ① 背中が畳に着くことをブリッジして回避する行為は「反則負け」が与えられる。
- ② 投げられた際、受けが両肘で着地し背中が畳に着くのを防いだ場合、取りに「技有」が与えられる。片肘の場合はノースコア。

7. 「投げ技」と「返し技」

(小内→返し) 7点のスコア
大内→大内返 ↳ノースコア

- ① 取りの攻撃に対し、素早く受けが「捨て身技」による「返し技」で反撃した場合（例えば取りの「内股」を受けが間髪入れず「横車」で投げた場合）、柔道の専門家だけにしか判断できないような混乱を防ぐため、体が先に着地した選手が投げられたこととする。
- ② 取りの投げ技を受けが完全に防御した後に、受けが「捨て身技」を施した場合は、体が先に着地したことだけで判断せず、「返し技」のスコアを認める。
- ③ 柔道には、「捨て身技」あることを理解しなければならない。

8. 柔道衣の乱れについて「教育的配慮」

より効率的に、より良い組み手を行えるように柔道衣の上着はしっかり帯で結んだ状態の中に収まっていなければならない。選手は、(柔道衣が乱れた場合) 主審が「待て」を宣告して「始め」を宣告するまでの間に、上着と帯を素早く直すこと。

9. IJF 新ルールの適用について

2017年1月から同年8月に開催されるブダペスト世界柔道選手権大会まで適用され、若干修正の可能性もあるが、それ以降は東京オリンピックまで適用されることが決定している。

全日本柔道連盟主催大会は、本年4月に福岡市で開催される全日本選抜柔道体重別選手権大会から適用される予定である。

全日本柔道選手権大会にも適用される予定であるが、県予選・ブロック予選には間に合わないため予選段階では旧ルールが適用されると思われる、各種大会要項の確認が必要である。

国際柔道連盟試合審判規定 (2017-2020) 改正の要点

国際柔道連盟発信
2017/3/17 更新

審判規定改正の目的

過去4年間で柔道が、とても前向きな進化を遂げたのは明らかである。リオオリンピックにおける成功は、これを具体的に証明している。ここ数年で選手の技術的な能力は大きく向上した。例えば、大会におけるテクニカルスコアの数は急激に増えた。2015年8月にカザフスタンで開催されたアスタナ世界選手権においては、いくつかの階級において80%以上に上った。

今回の分析は、IJF 理事、増員された柔道に関する専門家や柔道ムーブメントに関わるメディア代表者の監督下で行われた。今回の分析を受けて公表された、いくつかの変更や改正された規定が、今後、柔道に、より明快さとダイナミックな動きをもたらすことになると考えている。新しい規定は、各国連盟や20名から構成されるIJF コーディネーション委員会ディレクターからの提案を基に精査され、その後IJF 専門家ならびにテクニカル部門のIJF 理事により分析された。広く（情報を）共有し、民主的な同意を経て、今回これらの案が採用された。これらは、柔道の根本的な価値、道徳を踏まえて作成されており、我々の柔道が生きたスポーツとして現代の流れに適合し、より多くの観衆を魅了するであろうことを保証するものである。

採用される審判規定については、1月にアゼルバイジャンのバクーで開催された審判・コーチングセミナーで発表された。柔道家、コーチ、ファン、メディアは、IJF ユーチューブチャンネル (www.youtube.com/judo) において、1月6日、7日よりバクーのセミナーを見ることができる。

まず、審判員、コーチ、各連盟ならびに大陸の代表者に対し、新しい規定の各ポイントについて講義と実技講習を用いて詳細に説明される。それから試験期間が開始される。試験期間中、新しい規定は必要があれば改正される。この過程により、我々柔道コミュニティは、次のオリンピック出場資格獲得サイクルを、より最適な審判規定をもって開始することが出来る。ブダペスト世界選手権の終了後に、次回オリンピック出場資格獲得期間に適用される審判規定を決定する会議が開催される。

以下が新しく見直された規定の要点である。

国際柔道連盟試合審判規定 (2017-2020)

改正の要点

国際柔道連盟発信
2017/3/17 更新

試合時間

- 男女共に試合時間を4分とする。これは、IOCが男女の公平性を求めていること、ならびにオリンピックにおける男女混成団体戦で試合時間を統一するためである。

スコア

- スコアは、「一本」と「技あり」のみとする。
- 「技あり」には、今までの「有効」も含まれる。
- 「技あり」2つでも、「一本」と同等とはしない（“合わせ技一本”の廃止）。

抑え込み時間

- 10秒で「技あり」、20秒で「一本」とする。

試合の決着

- 規定試合時間（4分）において、試合は「技あり」、もしくは「一本」のテクニカルスコアのみ決着がつくこととする。
- （直接もしくは累計による）「反則負け」を除き、「指導」（1回目、2回目）の違いだけでは勝者を決定しない。
- 「指導」は、相手のスコアとはならない。

ゴールデンスコア

- 規定の試合時間が終了した時点で、試合両者にスコアがない場合、もしくはスコアが同等である場合、「指導」の有無にかかわらず、その試合はゴールデンスコアに突入する。
- ゴールデンスコアに入る前の規定試合時間内に与えられたスコア、ならびに罰則は、引き続きスコアボードに反映される。
- スコアが与えられた時点で、ゴールデンスコアは直ちに終了する。
- ゴールデンスコア中に「指導」が与えられた場合、与えられた選手が相手よりも多くの「指導」を受けたことになる場合、その試合は終了する。
(別紙資料 ゴールデンスコア参照)

国際柔道連盟試合審判規定 (2017-2020)
改正の要点

国際柔道連盟発信
2017/3/17 更新

罰則

- 指導4ではなく、指導3で「反則負け」となる。
- 3回目の「指導」が与えられた時点で「反則負け」となる。
- ~~審判の作法や審判への理解を明確にするため、過去に柔道衣の握り方で罰則が与えられていたピストルグリップ、ポケットグリップなどの組み手について、今後は罰則を与えない~~

組み方

- 標準的でない組み方（クロスブリップ、片襟、帯を握る行為、ピストルグリップ、ポケットグリップ等）の場合、直ちに攻撃しなければ「指導」が与えられる。
- ベアハグ（投げるために相手に抱きつく行為）を行う場合は、攻撃する選手が少なくとも片方の組み手を持っていないなければならない。組手のない状態において両手で相手に抱き着く行為には「指導」が与えられる。柔道衣に触れただけでは組んでいるとはみなさない。しっかり柔道衣を握っていること。
- 相手の袖の中に指を入れる行為は、今まで通り罰則を与える。
- 攻撃をしようとしなない、防御姿勢など柔道精神に反する消極的な行為に対しては厳しく「指導」が与えられる。
- 投技を準備するのに時間がかかることもあるため、組んでから攻撃を掛けるまでの時間を45秒に延長し、それまでに技がない場合は「指導」を与える。
- 脚を掴む行為や下穿きを握る行為については、1回目は「指導」が与えられ、2回目は「反則負け」が与えられる。



国際柔道連盟試合審判規定 (2017-2020)
改正の要点

国際柔道連盟発信
2017/3/17 更新

安全性

- IJF では、可能な限り柔道による外傷事例を抑えるため、安全性に関する規定を精査してきた。受が、背中から着地するのを避けるために行う試みについて、頭や首、脊椎を危険にさらす行為があれば、「反則負け」が与えられる。
選手が「一本」を避けるために故意にブリッジの体勢になった場合、主審は今までのように「一本」を宣告するのではなく、ブリッジの体勢で着地した選手に対して「反則負け」を与える。



ただし、これにより敗退した選手は、その後に試合（敗者復活戦や3位決定戦）があれば出場することができる。

- 柔道精神に反するような行為は直ちに罰せられる。
- 若い柔道家に悪い例を見せないように、両肘が着地した場合には技の効力を認め「技あり」を与えることができる。片肘で着地した場合には、技の効力を認めず、スコアとしての評価をおこなわない。



投技と返し技

- 取の攻撃に対して受が返し技を施した場合、自身の体が先に着地した選手が投げられたこととする。
- スコアを与えるに値する場合、適切なスコアが与えられる。
- 両選手が同時に着地した場合は、双方にスコアを与えない。
- 着地した後に選手が施した技（返し技）については、スコアの対象とはしない。
- 着地後のいかなる行為も寝技とみなす。



国際柔道連盟試合審判規定 (2017-2020)
改正の要点

国際柔道連盟発信
2017/3/17 更新



柔道衣

- より効率的に、より良い組み手で組むことができるように柔道衣の上衣はきつく縛った状態の帯の中に収まっていなければならない。さらに、選手は、主審が「待て」を宣告してから「はじめ」を宣告するまでの間に、上衣と帯を素早く正すこと。
- 仮に選手が時間を稼ぐ目的で柔道衣もしくは帯を乱した場合、「指導」を与える。

ワールドランキングリスト

(別紙 IJF RANKING EVENTS 参照)

団体ワールドランキングリスト

- 団体ワールドランキングリストは、大陸選手権大会、世界選手権大会に付与されるポイントによって構成される。

順位	大陸選手権 付与ポイント	世界選手権 付与ポイント
1位	700	2000
2位	490	1400
3位	350	1000
5位	252	720
7位	182	520
ベスト 16	112	320
ベスト 32	84	240



IJF Referee & Coach Seminar



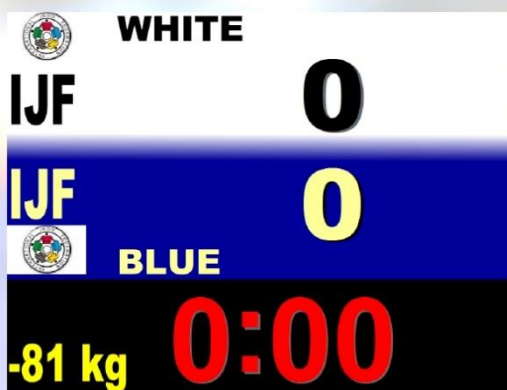
(試合終了)ゴールデンスコア突入 ->

勝者 白

4分終了時に白、青の両選手にスコアがない、ならびに指導がない(もしくは指導数が同じ)場合
→ ゴールデンスコアにおいて最初にスコアを獲得した選手の勝ちとなる



IJF Referee & Coach Seminar



(試合終了)ゴールデンスコア突入 ->

勝者 白

4分終了時に白、青の両選手にスコアがない、ならびに指導がない(もしくは指導数が同じ)場合
→ ゴールデンスコアにおいて、最初にペナルティを受けた選手の負けとなる



IJF Referee & Coach Seminar



(試合終了)ゴールデンスコア突入 -> 試合継続 -> 白の勝ち

4分終了時に白、青の両選手が同スコア、白に指導1が与えられている場合

→ゴールデンスコアで最初に青が指導を受けた場合、両選手が指導1で並ぶので試合は継続される
 ゴールデンスコアで最初に白が指導を受けた場合、白の負けとなる
 ゴールデンスコアで両者に同時に指導が与えられた場合も、白の負けとなる

→両選手が指導1で並んだ後、次にペナルティが与えられた場合、与えられた選手の負けとなる



(試合終了) -> ゴールデンスコア突入 試合継続 -> 試合継続 -> 青の勝ち

4分終了時に白、青の両選手が同スコア、青に指導2が与えられている場合

→ゴールデンスコアで最初に白が指導を受けた場合、白が指導1・青が指導2となり試合は継続される
 (ゴールデンスコアで最初に青が指導を受けた場合、青の敗退となる)

→次の指導を白が受けた場合、両選手が指導2で並ぶので試合は継続される

→両選手が指導2で並んだ後、次にペナルティが与えられた場合、与えられた選手の負けとなる



IJF RANKING EVENTS

	コンチネンタルオープン オープンエントリー	大陸選手権 大陸エントリー	世界ジュニア オープンエントリー	グランプリ オープンエントリー	グランプリ オープンエントリー	マスターズ トップ16	世界選手権 オープンエントリー
シード:	WRL 上位8名 (国際は考慮する)	WRL 上位8名 (国際は考慮する)	ジュニアWRL 上位8名 (国際は考慮する)	WRL 上位8名 (国際は考慮する)	WRL 上位6名 (国際は考慮する)	WRL 上位6名 (国際は考慮する)	WRL 上位6名 (国際は考慮する)
試合システム: 敗者復活戦: 銅メダルの数:	準々決勝以降敗者復活 ベスト8 2	準々決勝以降敗者復活 ベスト8 2	準々決勝以降敗者復活 ベスト8 2	準々決勝以降敗者復活 ベスト8 2	準々決勝以降敗者復活 ベスト8 2	準々決勝以降敗者復活 ベスト8 2	準々決勝以降敗者復活 ベスト8 2
出場選手数: (各階級ごと)	無制限	各国2名まで (各国、合計数が男子9名・ 女子9名を越えないこと)	各国2名まで (各国、合計数が男子10名・ 女子10名を越えないこと)	各国2名まで 開催国4名まで (ランキングリスト上位2名)	各国2名まで 開催国4名まで (ランキングリスト上位2名)	無制限	各国2名まで (各国、合計数が男子9名・ 女子9名を越えないこと)
1位	100	700	700	700	1000	1800	2000
2位	70	490	490	490	700	1260	1400
3位	50	350	350	350	500	900	1000
5位	36	252	252	252	360	648	720
7位	26	182	182	182	260	468	520
ベスト16	16	112	112	112	160		320
ベスト32	12	84	84	84	120		240
1勝利	10	70	70	70	100		200
参加のみ	6	6	6	6	10	200	20
賞金総額			100,000 USD	100,000 USD	150,000 USD	200,000 USD	1,000,000 USD